器械であるから各個人に應じて變化せしめる必要もないからである。この床几療法の彎曲矯正効果は顯著なるものがある。

(田邊抄)

新式人工太陽燈

Dr. Heinz Wendt 述(Die Umschau in Wiss. u.

Technik XL Jg. 43. H.)

自然の日光光線の治療作用の發見に就ては丁抹人フィンゼン氏に感謝する所大なるものがある。

自然の日光光線の健體及び病體に對する意義に就ては吾人の知識は廣められた。中にもベルンハルド、ドルノ、ロリール等に負ふ所が多い。然し技術及びこれを實際醫學への應用は疎遠にされてゐた。フィンゼンミ殆ど同時代に日光線療法の根本的發見は獨逸に於て殊にバツハ及びクロマイヤー氏によりて所謂水銀蒸氣燈の完成に端を發する。兎角するうちに生物學的に日光の有效な光線部分は紫外線領域に覺めらるべきものなることが確定した。けれども水銀蒸氣燈の光線には日光線のすべての長波部分のみならず殊に生物學上、最も有意義なるべき紫外線の長波部分を缺如してゐる。それでこれを自然の日光に酷似せしめようこの努力が拂はれたが徒勞に歸した。然し水銀蒸氣燈は可成り廣く行はれた。

フィンゼンの造つた炭素弧光燈即ち所謂「フィンゼン」燈は日光線に最も類似したものである。そして今日尙ほその改良されたものは治療界に於て殊に狼瘡の治療に愛用されてゐる。

幾多の技術的、物理學的及び生物學的實驗を経て今や炭素弧光燈は實際の豫望を満足せしめ得るやうなものが醫學領域に進出するに至つた。圖に示すは Albertus-Sonne 「アルベルツス」太陽光線はその實に於て「スペクトルム」は自然の日光「スペクトルム」に甚だよく似てゐる。炭素の適切な附加によりて「アルベルツス」太陽の光線は自然日光の赤外線から紫外線までの光線の全領域を包括せしめ得られる。即ち此の光線の利點は太陽類似の光線であつて、而も適當に炭素を選択すれば人工的に紫外線部分を自然日光

以上に高め得られるなごである。他の照射燈に比して費用が低廉である。冷却仕掛により光極に於ける溫熱發生あるにも拘はらず「ランプ」の加溫は格別認められない。炭素の交代は簡單である。紫外線部分に關しては三種の異なる溫度に於て炭素が供給される。中等度の炭素を以て七五厘の距離に於て約四分にて一紅斑量を生成せしめる。色素の沈著を來たすことも太陽に類似してゐる。殊に初或は中等度の炭素を用ひるべき最も顯著である。良效を奏する疾患は狼瘡である。瘡痒性の皮膚病にも佳效がある、此の作用は最強炭素の短波紫外線部と關係があるらしい。(田邊抄)

大腿骨頸部の被膜内骨折治療に於ける

スミス・ピーターセン氏釘の挿入

K. H. Priddle 述 (The Lancet July 1937.)

大腿骨頸部の被膜内骨折の場合にはスミス・ピーターセン氏釘を挿入する事が理想的の處置である事は從來一般に認められてゐる。舊式なホイットマン氏「プラスト」を用ゐるよりも確實に結合し且氣持よく恢復する。英國の骨折外科醫は高價な治療方法たるホイットマン氏「プラスト」に満足してはゐない。病院の寢臺は何ヶ月間も「プラスト」を使用する患者に依て占有され、而して熟練せる注意を要する爲看護はなかく、難しい。巧妙に挿入された

Groves 氏のものを改良せるもの

釘は看護上のあらゆる複雑さを省き、入院期間も非常に短縮される。而して機能的結果も優秀である。

リバプールの Watson 氏の如き技術者は、如何に此の手術が老人にさへも適用せられてしかも十分な結果を得たかを示して來た。併し乍ら切開手術は非常に難

しいものであつて老練家に依てのみ行はれる可きものである。英國の H. A. Britain, Eric Llooyd 氏及びオーストラリアの Thomas King 氏等は此の未知の技術を一般化せしむるのに多大の貢獻をしたのである。約一年前 Hey Groves 氏は極く簡單な形式の挿入器を考案した。それはスミス・ピーターセン氏釘を數學的正確さ(第一圖参照)を以て挿入するものである。全手術に八分間を要するのみで患者にはさしたる衝戟を與へず而して外科醫には大なる安心を與へる。手術上の危険は非常に僅少である。

老人にあつては大腿骨頸部は他の骨と共に石灰が缺乏して僅かな墜落等も十分に此の種の骨折の原因となり得る。一般の狀態が貧弱な場合には局所麻酔又は「ガス」麻酔のみに整骨して四肢を